

授業科目名	子ども家庭支援論	担当教員名	上村 康子
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分 等	保育の本質・目的の理解に関する科目
必修・選択/単位数	必修 / 2単位 (30時間)	授業方法/担当形態	講義 / 単独
開講学年/学期	1年 後期 (3-4期) / 年間開講数 2講座	特記事項	
授業の概要 及び 全体目標	近年、子どもや子育て家庭を取り巻く状況は大きく変わってきており、本来は子どもが安全で安心して生活する場の家庭において課題を抱えるケースが少なくないことから、保育士をはじめとする保育者等による子育て家庭への支援が求められている。そこで、子ども家庭福祉の理念や意義とともに子育て家庭への支援の必要性や意義・目的、支援体制等について学習し、理解する。学んだことを踏まえて、さまざまな実践事例を一人ひとりで検討するだけでなく、アクティブラーニングを取り入れてグループおよび全体で討議・検討してまとめて発表したり、ロールプレイングも体験して学び合い、保育の専門性を活かした保育者等の子育て家庭支援の知識や方法、技術について理解を深め、身につける。		
到達目標	(1)現代社会における子ども家庭福祉の理念と意義を理解する。 ①「家庭」「福祉」について理解している。 ②子ども家庭福祉の意義と理念を理解している。 (2)子育て家庭に対する支援の意義と目的を理解する。 ①子育て家庭に対する支援の必要性や目的、意義を理解している。 (3)保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ①保育士をはじめとする保育者等による保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義について理解している。 ②子ども家庭支援における保育士をはじめとする保育者の基本的態度について理解している。 (4)子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ①子育て家庭に対する支援施策と実施体制について理解している。 ②子育て家庭に対する支援において活用できる社会資源について把握している。 (5)子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 ①保育所等を利用する子どもの家庭への支援について理解している。 ②地域の子育て家庭への支援について理解している。 ③要保護児童とその家庭に対する支援について理解している。 ④今後の子ども家庭福祉および子ども家庭支援のあり方について考察し、レポートにまとめることができる。		
テキスト	使用しない		
参考書・ 参考資料等	①「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社) ②『子ども家庭支援論』松原康雄・村田典子・南野奈津子編(中央法規出版)、2019 資料: 授業時に担当教員作成のプリントを配布。毎回、そのプリントに基づき授業を進める。		
成績評価の方法	①平常点(受講態度等): 10% ②課題(課題への取り組み及び成果物、プレゼンテーション力): 50% ③コメントシート(毎回提出、内容等): 20% ④理解度・到達度チェック(筆記形式): 20%		
授業外(事前・事後)学習の方法、オフィスアワー等	事前学習については授業時に指示する。事後学習については毎回、コメントシートを提出。 オフィスアワー: 質問事項を質問シートに記載し、学務室経由で提出。		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	「現代社会と子ども家庭福祉 —家庭・福祉とは—」 家庭および福祉をどのようにとらえていくか、「家庭とは」「福祉とは」と問ひかけ、考える。	(1)-①	
第2回	「現代社会と子ども家庭福祉 —子育て家庭を取り巻く状況—」 子育て家庭を取り巻く状況について学習した上で、子ども家庭福祉の理念と意義について考える。	(1)-②	
第3回	「子ども家庭支援の意義と役割 —子ども家庭支援の意義と必要性、目的、機能—」 子育て家庭を取り巻く状況についての学習を踏まえて、子ども家庭支援の意義と必要性、さらにはその目的と機能について理解する。	(2)-①	
第4回	「子育て家庭に対する支援の体制 —子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進—」 子育て家庭に対する支援施策・次世代育成支援施策の変遷を概観するとともに、新たに設けられた子ども家庭庁等の実施体制について学習する。	(4)-①	
第5回	「子育て家庭に対する支援の体制 —子育て家庭の福祉を図るための社会資源—」 子育て家庭の福祉を図っていく上で活用できる社会資源について学習し、把握する。	(4)-②	
第6回	「保育士をはじめとする保育者による子ども家庭支援の意義と基本 —保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義—」保育の専門性を活かした家庭支援の意義とあり方について、「児童福祉法」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「幼稚園教育要領」等を通して考え、理解を深める。	(3)-①	
第7回	「保育士をはじめとする保育者による子ども家庭支援の意義と基本 —子どもの育ちの喜びの共有—」保護者にとって子どもの育ちの喜びを保育士と共有することの意義を「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「幼稚園教育要領」等を通して考え、理解を深める。	(3)-①,(3)-②	
第8回	「保育士をはじめとする保育者による子ども家庭支援の意義と基本 —保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援—」子育て家庭だけでなく地域全体で子育てをしていくことの大切さとそのための支援の意義を考え、理解する。	(3)-①,(3)-②	
第9回	「保育士をはじめとする保育者による子ども家庭支援の意義と基本 —保育者に求められる基本的態度—」子育て家庭を支援する際に求められる保育者の基本的姿勢や倫理について、「全国保育士会倫理綱領」(2003年策定)を参考に考えてるとともに、ロールプレイングを通して理解を深める。○理解度・到達度チェック(筆記形式)	(3)-①,(3)-②	
第10回	「保育士をはじめとする保育者による子ども家庭支援の意義と基本 —家庭の状況に応じた支援—」さまざまなニーズを抱えた子育て家庭に対する支援について考え、理解する。	(3)-①,(3)-②	
第11回	「保育士をはじめとする保育者による子ども家庭支援の意義と基本 —地域の資源の活用と自治体や関係機関等との連携・協力—」子ども家庭支援においては地域の資源の活用と自治体や関係機関との連携・協力が不可欠であり、そのあり方について考え、理解する。○理解度・到達度チェック(筆記形式)	(3)-①,(3)-②,(4)-①,(4)-②	
第12回	「多様な支援の展開と関係機関との連携 —保育所等を利用する子どもの家庭への支援—」保育所等を利用する子どもの家庭に対する支援について、事例等を用いて検討し、まとめて発表する。	(4)-①,(4)-②,(5)-①	

授業計画	授業の内容	到達目標番号
第13回	「多様な支援の展開と関係機関との連携 ―地域の子育て家庭への支援―」地域の子育て家庭への支援について、事例等を用いて検討し、まとめ、発表する。	(4)-①,(4)-②,(5)-②
第14回	「多様な支援の展開と関係機関との連携 ―要保護児童等およびその家庭に対する支援―」要保護児童とその家庭に対する支援について、新聞記事や事例等を用いてグループで検討し、まとめ、発表する。	(4)-①,(4)-②,(5)-③
第15回	「多様な支援の展開と関係機関との連携 ―子ども家庭支援の内容と対象および子ども家庭支援に関する現状と課題―」今までの授業を踏まえて子ども家庭支援の内容と対象を振り返った上で、子ども家庭支援の現状についてまとめ、今後の子ども家庭福祉および子ども家庭支援のあり方について考察する	(1)-①(1)-②,(2)-①,(3)-②,(4)-①,(4)-②,(5)-①,(5)-②,(5)-③,(5)-④